

学校経営目標		安心があふれ、自信の育つ学校づくり			経営理念 ミッション・ビジョン・バリュー			【ミッション】大崎上島を愛し、大崎上島の将来を担う たくましく生きぬく子供の育成 【ビジョン・バリュー】・自ら考え、判断し、行動できる「自律」した力を持った人材を育成する学校 ・失敗こそ学びであるとの認識を持ち、心理的安全性を確保し、自己肯定感を育成する。 ・自らを俯瞰的・客観的に見ることのできるメタ認知能力を育成する。				
学校教育目標		主体的に学び続け、共に育つ学校づくり										
評価計画					自己評価				学校関係者評価		改善方策 今後に向けて	
中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目・指標	目標値	達成値	達成度	評価	結果と課題の分析		コメント(最終)		
確かな学力	主体的な学びを実現する。	意欲的に問題に取り組む。 ①豊かな表現力 ②主体性・粘り強さ	◎主体的な学びの推進 【①豊かな表現力②主体性・粘り強さ④協調性】 ・児童が相手や場面・目的に応じて、自分の考えを明確にしなが互いに伝え合うことができるような場づくりを行う。	◎算数科授業についてのアンケート(児童評価) ・算数が分かる ・授業が楽しい ・授業中に自分の考え(算数用語・関係図・ロイノート・学習のカギ・話型)を使って表現している。 ・授業中に自分の考えを友達に説明したり質問したりしている	80%	80%	100%	B	児童アンケートの結果から児童は算数がよく分かる、楽しいと感じるに関しては目標値を達成することができた。 自信がもてなかったり、学習内容が理解できていなかったりする児童に対しては、担任がサポートを行ったり、児童同士でアドバイスしたりできるように授業展開の工夫を行ってきた。授業中に自分の考えを友達に説明することについては、目標値を下回った。	ICTを活用した指導方法の工夫が行われていてよいと感じた。分らないことを安心して友だちに伝える、聞くことができる学習環境がとてもよい。学級経営や児童相互の関係性のよさも感じられた。子どもたちが教え合う場を大切にしていってほしい。班活動での考えの深め合いも大切だと思います。 「授業がよくわからない」と回答した児童については、生活習慣や特別支援の必要性との関連を分析して、ひとりひとりが「できた、分かった。」と思えるようにしていってほしい。 評価項目に教師評価も加えることで、より効果的に結果の分析を行えると思います。	○つまずきやすいポイントを教師が予想して、授業の展開を考えていくようにする。 ○子供同士の学び合う場を、これからも大切にする。教師が話し合い活動を行う適切なタイミングを見極め、場を設定するようにする。	
		基礎学力を確実に定着させる。 ②主体性・粘り強さ	◎基礎学力の確実な定着 ・授業で学んだことを、大崎小タイムや自主学習で繰り返し取り組み、確実に基礎学力を付ける。	◎算数科の単元テストの「知識・技能」の学校平均	80%	86%	108%					A
豊かな心	チャレンジする児童があふれる学校づくりを推進する。	自ら決めた目標を設定し、達成に向けて努力することができる。 ②主体性・粘り強さ	◎能動的な活動の育成 ・目標を達成することに、ご褒美シールを貼る。 ・全校朝会で中間発表し、定期的に目標の達成度を確認する。	◎自分が決めた目標の達成に向けて取り組む児童の割合(児童・教師評価)	75%	91%	121%	A	児童アンケートの結果から児童は目標を意識して取り組んでいるようである。一方、達成できていない児童は、「目標が難しかった」と回答している児童が多い。適切な目標の立て方を指導し、各担任がチェックしていく。 また、達成までに時間がかかっている児童(一度も達成していない児童)には、適宜声掛けを行ってきた。担任も目標達成を意識することで、児童評価と担任評価のずれがなくなったと考えられる。	目標を達成していき児童の自信につながる取組になっているのがよい。一人一人の状況に応じた難易度の設定を行い、成功体験を積み上げてほしい。 児童評価と担任評価のずれが少なくなったことはよいことなので、教職員が適切な目標の立て方について共通認識をもって取組を継続していってほしい。	○引き続き担任が確認して設定できるようにする。 ○目標設定については、少しがんばったら達成できる目標となるよう教職員間で共通認識を持ち、児童自身で目標設定ができるようにする。 ○目標の達成が困難な児童については、担任が声掛けを行い、成功できるよう、目標を再設定させる。	
健やかな体	健康な体づくりを推進する。	自分の体力の向上のために進んで運動する。 ②主体性・粘り強さ	◎体力の向上 ・体育科授業において場の工夫に取り組み、子どもたちにできたという喜びを味わわせる。 ・縦割り班遊びを活用して、進んで外遊びを行う児童を増やすとともに、体を動かすことが好きだという児童の割合を上げる。	◎体育科授業で場の工夫に取り組む教師(教師評価:児童の口頭での振り返りや振り返りシート・写真など) ○児童アンケートによる、「体育や外遊びで体を動かすことが好き」と答える児童の割合(児童評価)	各学年年間5個以上	平均3.5個	70%	C	教師アンケートの結果から、場の工夫にはどの学年でも取り組むことができた。しかし、年間通して5回以上という目標は達成できなかった。 外遊びに関しては、体育朝会や縦割り班遊びを仕組んだことで、目標値を達成することができた。苦手の児童も体を動かすことが好きになるよう、いろいろな運動に取り組ませていく。	場の工夫を行うことで、児童のレベルに合った練習ができるのはとてもよいと感じる。個に応じた指導にもつながると考えられる。 色々な遊びを通して、児童に経験をさせてほしい。その中で体の使い方を覚えていってほしい。 体育科授業における取組及び評価項目等の見直しを図り、評価の妥当性を検討していただきたい。	○場の工夫について教職員間で「安全性を高めつつ児童の意欲を高め、運動量を増やす」という共通認識をもって教材研究を行う。 ○場の工夫を教職員間で共有し、お互いに活かせるようにする。 ○様々な体の動きができるような遊びを意図的に児童に提示する。	
		基本的な生活習慣の改善をする。 ②主体性・粘り強さ	◎基本的な生活習慣の確立 ・生活リズムチェックカードを活用し、早寝早起きに関する児童の実態把握を行う。そして、寝る時刻を守れる児童の割合を上げる。	◎各学年で設定されている寝る時間をまもることのできる児童の割合(児童評価)	75%	81%	108%	A	「生活リズムチェックカード」の結果からは、目標値を達成できている。チェック週間以外の期間では、寝不足のようすが児童から見受けられることがあるので、担任から保護者への声掛けを行ったり、養護教諭との連携しながら児童へ指導をしていく。 また、タブレット等の時間が守れず寝る時間が遅くなっている実態もあるので、保護者との連携をしながら、睡眠時間の確保をしていく必要がある。「生活リズムチェックカード」取組の結果を保護者にお知らせし、児童の生活習慣の現状を把握してもらい、規則正しい生活リズムで過ごせるよう協力してもらう。	学年に差はあるものの目標を達成できている。取組を継続して、習慣化を図ってほしい。 課題のある児童及び保護者への声掛けや連携について組織的に対応していってほしい。必要があれば地域人材を活用して、家庭を支援できる体制づくりもできればいいと思います。	○「生活リズムチェックカード」の取り組みは引き続き行い、児童の生活習慣の把握に努める。 ○寝る時間が守れていない児童が校内で見られるので、学校医と連携し、睡眠の大切さについて親子で考えられる機会を設ける。 ○メディアの使い方について適切に把握するために、確認の頻度を上げ、正しい使い方ができるよう指導を行う。	
信頼される学校	地域に開かれ、信頼される学校づくりを推進する。	学校・家庭・地域のつながりを深める情報交流	◎信頼される学校づくり ・学校の取組を分かりやすく伝える情報発信を行い、理解と協力を得る。 ・地域の人材を活用し、つながりを深める。	◎保護者アンケートによる情報発信(学校だより、学級通信、保健だより、図書だより)(保護者評価) ○地域の人材活用(各学年平均3回以上)	90%	94%	104%	A	○学校便りは定期的に発行し、学校での取り組みや考えについて児童の姿を通して紹介することができた。 ○学校応援隊においては、校外学習の児童の際、安全の見守りを行っていただいた。「ふれあい体験活動」を行い、新たなゲストティーチャーを招くことができた。 今後に向けては、 ・学校便りの定期的な発信で、子供たちの成長・努力・頑張りを発信する。「発行するタイミング」「ポジティブな情報」 ・行事だけでなく、日常の様子を積極的に紹介する。 ・「学校応援隊(ボランティア)」の募集を継続して行う。	居場所が多い子どもほど、自己肯定感が高いというデータがある。学校、家庭、地域が一体となって子どもを育てる活動を行う中で、地域の人材を活用することの教育効果について広く、知らせることができるかという思いです。 地域の人材を活用しながら、子どもに人の役に立つ経験や、人に感謝される経験をしてほしい。	○学校の情報を積極的に発信する。(学校だよりの定期的な発行、学級通信の配信や配布、ICTを活用した連絡) ○学校だけで教育を行うのではなく、地域と協力することを行う。(地域ボランティアの活用、地域の方を招いた学習活動等) ※学校応援隊の活動の周知と、参加への呼びかけを行う。 ※ふれあい体験活動を、各学年・学級、年1回以上行う。	
		働き方改革の実現に向けた環境整備をする。	◎県費負担教職員の時間外在校時間の縮減 ・長期休業中に計画的に連続した年休を習得できるよう日程調整を行っていく。 ・定時退校日の周知を行い、業務内容及び、業務遂行状況を見直し、時間外在校時間を少なくする。	◎長期休業中に計画的に連続した年休取得(連続3日以上) ○定時退校日を設定し、月4回以上行う。(入退校記録)	80%	75% 81%	93% 101%	B A	○冬季休業中の連続した年休取得(12/16名)75% ※業務内容によって、取得が難しい状況があった。(栄養教諭・給食センター管理、主事) ○定時退校日(17時台に退校を3日以上)(13/16名)81% 11月平均7.3日 12月平均7.1日 1月8.1日 ※前月まで4~6日 ○学期末事務処理に関わり、午後からの時程を見直し、毎学期末1週間は業務時間の確保を行った。 ※会議や打ち合わせ等の設定は行わなかった。(行事「6年生を送る会」を行った。時期の意見直しは難しいと考える。) ○ICTの活用については改善を行う。情報過多になっている状況があるので、整理できることは行う。 (「Googleドライブ」「Microsoft『Team』s」)「ロイノート」「校務運営システム『Te-Comp@ss』」)	ICTを活用して業務を整理したり、情報共有したりできているのはよいことだと思います。 業務改善については、教職員の意見を取り入れるなど、学校全体で推進していく風土づくりも大切な視点であると思います。	○ICTを活用して業務整理し、情報共有しやすくなるために、 ・ICTツールで「情報をまとめる」※情報がバラバラだと共有が難しいので、1つの場所にまとめる 例:情報共有は「Google Drive」 文書共有は「Microsoft SharePoint」 画像共有は「Google Drive」 ・業務ルールを作り、定期的に改善していく 例:予定は「ロイノ(テレビ)」、職期・暮合報告「Googleチャット」※担当を決める ○定時退校日(17時台で帰る日)を増やしていく。※「ノ一残業Day」の設定(教務と調整) ○会議の時間を短縮(資料事前共有) ○校務の分担:行事担当をチーム制(複数)にする	

本年度の重点目標については◎印で示す。

【自己評価 評価】  
A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100  
C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60